



まちなかキャンパス ミニ里山生物園 特別企画 No.2

12月17日(水)16:20~ 於 まちなかキャンパス

ラウンド
テーブル
トーク

罨にかかった動物の痛みをどう考えるか？



■ 現在、気候変動や食物連鎖の機能の低下などが要因と考えられるニホンジカやイノシシの増加が問題となっています。それは、農作物や希少植物への被害を引き起こし、その対策への一方法として、“狩猟”が注目されています。鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律の制定もその一環です。

■ 罨や銃で捕獲された鳥獣は、いわゆるジビエ(狩猟によって捕獲された野生鳥獣の肉食品)として、市場に流通することが期待されていますが、まだ充分な利用には至ってはいません。

■ 狩猟は、ヒトという生物学的な存在が生きるための極めて自然な行動で、また現在の鳥獣被害問題に対する重要な対策と考えられます。しかし、一方で、「狩猟」と聞くと、どうしても“動物の痛み”という点を感じてしまう人が多いのも事実ではないでしょうか。

■ 今回のラウンドテーブルトーク(テーブルの周りで、提起された問題について自由に語り合う)で、八頭町を中心に狩猟活動を行っている、環境大学OBの緒方陽紀さんに話題提供をしてもらい、「罨にかかった動物の痛みをどう考えるか？」について考え、話す場をつくりました。参加しませんか。話の後で、シカやイノシシの肉を調理して食べてみましょう。



問い合わせ: 鳥取環境大学環境学部環境学科 小林研究室(t-kobaya@kankyo-u.ac.jp)